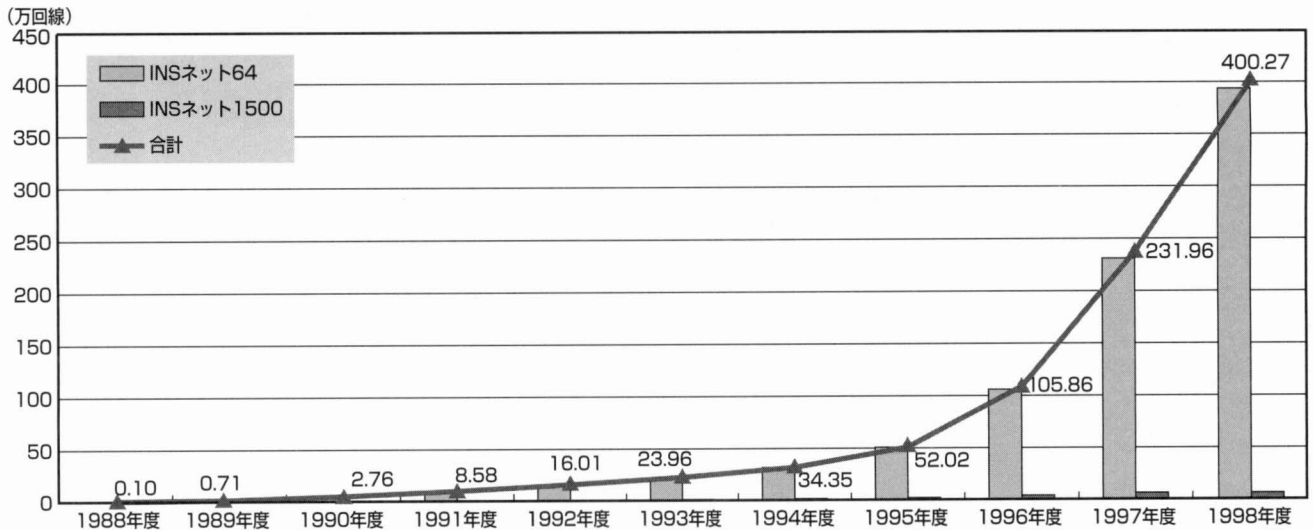


第1章 通信ネットワーク

ISDN

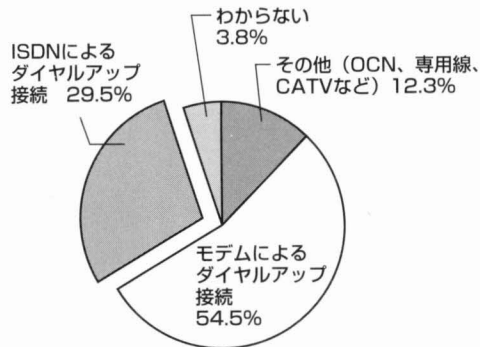
インターネットユーザーの約3割が利用

資料2-1-1 INSネット契約回線数の推移



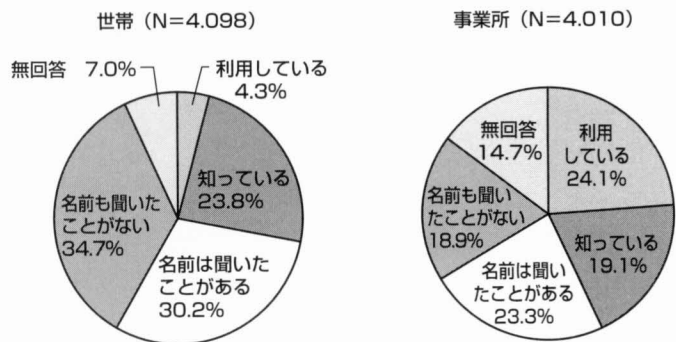
出所 NTT資料を元に作成

資料2-1-2 インターネットのおもな接続方法におけるISDNの割合 (N=1,060)



インターネット白書'99 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 1999

資料2-1-3 ISDN回線の利用状況と認知度



出所 郵政省「平成10年度通信利用動向調査」を元に作成

解説

NTTが提供するINSネットは、一般普及型のINSネット64と大規模事業所向けのINSネット1500の2種類がある。このうちINSネット64は、家庭や小規模事業所でも手軽に64kbpsの通信速度が利用できることと一般の電話回線やFAXを使いながらインターネットを利用できるというメリットから、インターネット人口の拡大とともに急速に普及し、1998年度末の契約数は395万回線を数えている。

本書の調査では、個人のインターネットユーザーのうち29.5%がISDNによるダイヤルアップ接続と回答、昨年より若干増えている。ISDNを利用するにはターミナルアダプター (TA) と呼ば

れる通信機器が必要だが、97年～98年にかけてルーター機能が付いた製品が数万円で登場し、複数のパソコンを持ったヘビーユーザーに受け入れられたことも安定した需要につながっているだろう。

インターネット利用を問わず、一般家庭と事業所でISDNがどれくらい利用されているかというデータは、郵政省の通信利用動向調査が参考になる (資料2-1-3)。これによると、ISDNを利用していると答えた世帯は全体の4.3%である。

32ページで紹介したように、家庭のインターネット世帯普及率は12.89% (アクセスメディアインターナショナルの調査) である。個人のインタ

ネット利用者のうち、約3割がISDNを利用しているとすると、この4.3%というISDN世帯の大半がインターネットを利用していると見ていいのではないだろうか。事業所のほうでは、すでに24.1%がISDNを導入しているという結果になっている。その一方で、「名前も聞いたことがない」と答えている人は、家庭では34.7%、事業所でも18.9%いる。これは、パソコンやファクシミリなど電話以外の情報機器を利用しないかぎり、ISDNのニーズが低いことを示している。

(編集部)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp